

支笏湖を眺めながら

瀬戸 静恵

財団法人自然公園財団支笏湖支部

一・台風と共に

学生時代から使っているノートの最初のページに森林や林業に関する出来事をまとめた「林政年表」を付けている。当時は真剣に見たことなどほとんど無かったが、最近では時々やってくるピンチの時にこの年表を開くことがある。林学出身の私にとってはどんなに時間が過ぎてしまっても、その年表を覗くとヒントがあるような気がする。

二〇〇四年の春から支笏湖で勤務しているが、仕事を始めて間もないころは早く周辺の様子が知りたいと、気持ちの先走るまま、あちこち歩き回っていた。ところが九月、台風十八号が直撃し支笏湖周辺の森はすっかり姿を変えてしまった。

とは言ったものの正直に言うと、台風が来る前の支笏湖周辺がどんな風景だったか、森がどんな様子だったのか、はっきりとした印象がないのである。ピンチを救ってきた野帳を見直しても年表とはほど遠く、まるで落書きのよう。これには大変後悔し反省している。自然の中で遊ぶのが大好きで、せっかくな支笏湖で勤務しているのだから、何もしないで時間をやり過ごすのはもったいない。台風が過ぎた後、お気に入りだったシラカンバの林が無くなり、その場所からは見えなかった樽前山を眺め、私と支笏湖とのつきあいは、残念ながら台風が過ぎ去った後からであると思うと少し寂しい気持ちになった。

台風から四年が過ぎ、新たに植えられたシラカンバが私の背丈ほどの高さになっている。自分の「支笏湖度」もこのシラカンバの苗と同じくらいだろうか。わずかではあるが台風前の様子を知り、そしてもし自分が日本人の平均寿命を全うできたら、五十年後の支笏湖の森を見られるかもしれない。これらの苗木が二〇〇四年の春に見た姿に戻るまで、支笏湖と共に成長できたら大変幸せだとこの頃は思っている。

二・千歳川をたどって

昨年より千歳市民となった。それまでは、江別から支笏湖まで片道六〇キロを往復していた。長沼から千歳の中心部までの道のりは景色もすばらしく、毎日とても楽しみだった。しかし近道を探すために農道へ迷い込み「今どこにいるのかわからないのですが・・・」と事務所に電話をした恥ずかしさを思い出すと、今は勤務地が近くなり、ほっとしている。

仕事帰りに「湖畔橋」に立ち寄る事がある。山線鉄橋の一〇以下流にあり、上流側には山線鉄橋と湖そして恵庭岳を望む事が出来、下流側ではゆったりと流れる水に映った木々や野鳥を季節毎に楽しむことができるお気に入りの場所の一つだ。晴れた日の夕方にデジタルカメラを片手に帰宅前の散歩をすることを日課にしていた時期があり、その締めくくりには必ず「湖畔橋」に立ち寄っていた。

「湖畔橋」で支笏湖から流れ出る水に挨拶をし、車へ乗り込む。支笏湖公園線に入ると水明橋を最後に千歳川の存在を忘れてしまう。しばらくして市街地に近くなつてから鳥柵舞橋を渡る。ここから先は住宅も多くなり、私自身も今はこのあたりを犬を連れてよく歩くのだが、そこからの千歳川はこんなにも親しみやすい川はあるだろうかと思ってしまうほどに目の前を悠々と流れてゆく。



写真-1 支笏湖周辺で野生化したアライグマ

さて江別方面に向かい、支笏湖公園線を出てから次に千歳川を渡るの
長都大橋。この近くにはかつて長都沼があったことから、春先には白鳥や
雁などの渡り鳥を見ることが出来る。また、広々と続く耕地は北海道らし
い風景を作っており、千歳川の氾濫と人の関わりも垣間見る事もでき
ちよつとした名所だと私は思っている。こうして、千歳川は私の通勤を支
えてくれていた。近頃は、休日の散歩で楽しませてくれている。

三. アライグマの捕獲

支笏湖でアライグマを捕獲するようになってから今年で三年目になる。

支笏湖で勤務する以前の職場で、初めてアライグマの捕獲や解剖を見せて
もらった。現場には捕獲され薬殺を待つアライグマが並んでおり、あまり
の衝撃に涙があふれた。外来生物を扱っている人の多くは、生き物が好き
でこの世界に入ったように思
う。誰もが一度は経験する涙
であるという人もいた。私も
生き物が大好きだ。だからこ
そこれ以上アライグマのよう
な動物を出さないためにも、
外来生物の事は真剣に考えな
くてはいけないことだと思っ
て取り組んでいる。
二〇〇四年の帰宅途中、支
笏湖からまだそう離れていな
い場所であるで都会の野良猫
のように歩道を悠々と歩くア

ライグマを見かけた。あわてて車を降り、写真を撮ろうと携帯電話のカメ
ラを向けて一枚。完全に人慣れしている様子だった。調査をしている人
も野生のアライグマがうろうろしているのは滅多に見られないという。こ
の頃は、既に市街地でもアライグマの被害や捕獲も少なくなかったと思
うが、支笏湖周辺でアライグマが見られるということはあまり知られてい
なかっただろう。

「支笏湖周辺でもアライグマが野生化していることを知ってもらう」、こ
れを最大の目標として捕獲を決めた。しかし支笏湖は国立公園のため、野
生動物の捕獲は簡単にはいかない上に、「特定外来生物による生態系等に係
る被害の防止に関する法律」が施行されるなど、難題がたくさんあった。
まずは狩猟免許を取得し、保護官の顔を見るたびに「この辺にアライグマ
がいますけど・・・」と唱える事しかその頃の私には思いつかなかった。
その甲斐あってか、二〇〇六年よりアライグマの捕獲が可能になり、この
年は一二頭を捕獲した。

昨年からはアライグマの他にもオオハンゴンソウの駆除作業にも取り組
んでいる。支笏湖全体で言えば、他にもウチダザリガニやコマクサの駆除
も行われている。ひたすら自然の中で遊ぶのが好きだという私には、この
外来生物の問題は大変難しいテーマで、考えれば考えるほど頭が混乱して
しまう。私に言えることは「支笏湖周辺ではたくさんの方の外来生物が野生化
している」という事実だけだ。しかし、様々な「難題」を理由に外来生物
の問題を放置していいはずはない。

大好きな支笏湖でより長く生き物たちと遊べるように、また外来生物に
対する良いアイデアが出るように、今後も大勢の自然愛好家の方々から
知恵をお借りしながら、支笏湖の自然を眺めていたいと思っている。